

政策 01 みんなで支えあう健康のまちづくり

施策 02 地域医療・福祉医療の推進

あるべき姿

施策がめざす尾張旭市の姿
病气やケガの際に安心して医療が受けられるまちになっています。

施策の成果状況と評価

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	地域の医療機関を安心して利用している市民の割合（％） 【健康課】	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
		93.9	94.2	91.9	94	☂ (低下)
評価	前年度に比べ、実績値（H30）が2.3ポイント減少した。					対 前年度
		☂ (低下)	目 標 達 成 度			
						(---)

基本事業の成果状況と評価

基本事業01 高度医療体制の充実

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	高度医療を5km圏内で受けられる市民の割合(%)	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【健康課】	100	100	100	100	☀ (向上)
評価	本市では、5km圏内に高度医療の病院(第3次救急医療施設:2病院、第2次救急医療施設:1病院)があり、市民が緊急時を含めていつでも高度医療を受けられる位置的好条件がある。病院においても医療の安定化が図られ、当地域の中核病院として役割を果たしている。					対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達成度
						🏰 (達成)

基本事業02 救急医療体制の充実

指標	救急のときに医療を受けられる病院等を調べることのできる市民の割合(%)	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【健康課】	73.6	73.6	78.7	75	☀ (向上)
評価	前年度に比べ、実績値(H30)が5.1ポイント向上した。これは、瀬戸旭休日急病診療所の開設(平成29年8月)により、診療所が定点化され、場所に迷わず受診可能となったことが要因と考えられる。					対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達成度
						🏰 (達成)

基本事業02 救急医療体制の充実

指標	救急医療を5km圏内で受けられる市民の割合(%)	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【健康課】	100	100	100	100	☀ (向上)
評価	第1次医療では瀬戸旭休日急病診療所、第2次医療では旭労災病院、第3次医療では陶生病院や愛知医科大学病院があり、5km圏内で救急医療を受けられる体制が確保されている。					対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達成度
						🏰 (達成)

基本事業03 かかりつけ医制度の普及

指標	かかりつけ医を持っている市民の割合(%)	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【健康課】	72.3	70	71.8	75	☂ (低下)
評価	前年度に比べ、実績値(H30)が1.8ポイント向上した。本市では5km圏内に高度医療の病院が3か所、その他市内の診療所が59か所あり、地域の医療施設が整っているためと考えられる。					対 前年度
						☀ (向上)
						目 標 達成度
						(---)

基本事業04 福祉医療費の助成

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	各種助成の年間助成件数（件）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【保険医療課】	306,539	314,750	304,621	-	(比較不可)
評価	(状況) 前年度より減少した (原因) 平成29年12月末を以って特定疾患医療費助成制度終了に伴う経過措置満了。平成30年7月末を以ってマル福ひとり暮らし要件の医療費助成制度終了に伴う経過措置満了。それぞれの制度終了に伴う経過措置満了により、障害及びマル福の件数は対前年比 21.51%及び 5.82%だった。しかし、両制度とも制度終了以外の要件での助成件数は、障害で4.05%マル福で2.55%増加している。子ども・母子父子・未熟児とも減少だが、精神は対前年比4.22%増加している。					対 前年度
						(比較不可)
						目 標 達成度
						(---)

基本事業04 福祉医療費の助成

指標	(参考：各種助成の年間助成金額) (千円)	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【保険医療課】	826,310	861,109	841,529	-	(比較不可)
評価	(状況) 前年度より減少した (原因) 平成29年12月末を以って特定疾患医療費助成制度終了に伴う経過措置満了。平成30年7月末を以ってマル福ひとり暮らし要件の医療費助成制度終了に伴う経過措置満了。制度終了以外の障害については助成件数が増加しているも、助成額が対前年比 3.57%減少しており、また、子どもについては助成件数が減少しているも、助成額が対前年比0.42%増加している。					対 前年度
						(比較不可)
						目 標 達成度
						(---)

基本事業04 福祉医療費の助成

指標	福祉医療費助成によって、安心して医療が受けられる人の割合 (%)	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【保険医療課】	20.3	19.7	19.0	-	(比較不可)
評価	(状況) 前年度より減少した (原因) 制度終了に伴う要因もあり平成29年度と比較して0.7ポイント減少になっている。全体で約612人減少。福祉医療費受給者数と申請者数の年平均：平成29年度16,439件・H30年度15,833件 606件減少、総人口(10/1現在)：H29年83,324人・H30年83,409人 85人増					対 前年度
						(比較不可)
						目 標 達成度
						(---)

基本事業05 国民健康保険の健全な運営

指標	国民健康保険被保険者の1人あたりの年間医療費 (千円)	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【保険医療課】	310	334	334	-	(比較不可)
評価	(状況) 平成29年度と比較して679円減少した。ほぼ横ばい。 (原因) 療養給付費は、受診率は増加したが、1人当たり費用額は-0.2%の減少となった。前年度同様、訪問看護が増加したものの、入院や調剤の減少額のほうが大きかった(入院-1.3%、入院外+1.4%、歯科+0.8%、調剤-2.9%、食事療養-2.8%、訪問看護+21.1%)。療養費は受領委任制度の導入により、あんま・マッサージ(+76.2%)、鍼・灸(+19.1%)が著しく増加したことにより、全体で3.7%増加した。					対 前年度
						(横ばい)
						目 標 達成度
						(---)

基本事業05 国民健康保険の健全な運営

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	国民健康保険税収納率の県平均収納率との差（％） 【保険医療課】	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
		0.7	1.5	1.7	県平均以上	☀ (向上)
評価	(状況) 平成30年度の市収納率は95.95%で、県平均収納率94.28%より1.67ポイント上回った。 (市収納率平成28年度94.60% 平成29年度95.50% 平成30年度95.95%) (原因) 平成23年度から「東尾張地方税滞納整理機構」が発足し、収納課徴収員の徴収技術が向上したことによる。	(％) 				対 前年度
		☀ (向上)	目 標 達成度			
					☀ (達成)	